
教育総合センター だより

NO. 90

平成15.12.1

京・洛北界限

教育委員会
総務部長 福森 務



京都の好きな私は、秋が深まり始めると、洛北を訪れる機会が頻繁となる。

京の紅葉もいい。冬にかけて観光客の少なくなった神社仏閣もいい。しかし、何よりも一番のお目当ては大学ラグビーである。京都市北区にある宝が池球技場。

昔から大学ラグビーの京都での試合は、大半がこの町の北はずれにあるチッポケな球技場で行われる。

私の住む神戸市北区からだと片道約2時間。ちょっとした小旅行になる。

今から30年ほど前、私が京都の大学でアルバイトと学生運動に明け暮れていた頃、この辺りは、まだほとんど観光客も訪れることのない片田舎であった。当時、地下鉄もなく交通機関と言えば、市バスと石畳の上をガタゴトと走る路面電車だけであった。

ラグビーのシーズンともなると貧乏学生だった私は、今出川通りにあった大学から市電に乗り、時には歩いて球技場に出かけた。あの頃、私にも世の中にもお金はなかったけれど、洛北辺りは落ち着いた町並みに秋の温かい日差しと山の緑があふれ、道行く人にもどこかまだ心にゆとりが残って

いたように思い起こされる。

さて今の洛北、とくに北山通りは、地下鉄の駅もでき、若者の町に大きく様変わりした。いろんな店が建ち並び、観光客と若者であふれている。京都の新しい観光スポットだ。それもまた楽し。でも、遠い昔にどこかで何か大切なものを置き忘れて来てしまったような、何か心淋しい思いを持ってこの賑やかな町を見ているのは私だけではないかも知れない。

町の様子は変わってしまったが、変わらないのはラグビー。毎年のように宝が池のグラウンドでは、大学生たちが体をぶつけ合い、泥まみれになりながら楕円形のボールを追いかけ回している。防具を一切つけず、体と体をぶつけ、ひたすらボールを追い求める直向きのプレーがある限り、私は毎年、秋になると京都洛北を訪れる。

自己犠牲に徹し、みんながチームのために全力で闘い、ノーサイドの笛が鳴れば、敵味方なく互いの健闘を讃え合う。“ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン”と言うラグビースピリットに、何かしら世の中がよくなるのではというほのかな期待を寄せながら。

人権教育として必要なこと

人権文化とは

人権とは何か？一般的には、人間は生れながらにして自由かつ平等であるということに基づき、人間らしく生きるために必要な全ての権利であると言われていました。もっと平たく言うと、人と人とが幸せに生き合うための必要最小限の約束事ではないでしょうか。

では人権文化とは何か？そうした人権を尊重し合う事が全くの当たり前になってしまった社会のあり方、これも平たく言うと、人間の喜怒哀楽や悩んだり、こけたり、滑ったり等の事象、行動を人権の視点で考える習慣ではないかと考えています。

今の子ども達は

「僕なんか生まれへんかった方がよかってん。」「私なーいらん子やねん。」自分が愛されていないと感じる子ども達、親にとって自分はいらん子だと感じる子ども達、自分のことが大事に思えず、自分のことが好きになれない子ども達、つまり自尊感情が育まれていない子ども達が確かに増えているように感じます。

今の子ども達の話になると、「あいさつができない」「話が聞けない」「生活習慣が身についていない」「自己中心的」「人間関係づくりができない」「相手の気持ちがなかなか分からない」等々、多くの声が聞こえてきます。しかし、そうしたことは、もちろん子ども達のせいばかりではなく、家庭状況、社会的状況等を背景とした様々な要因が重なった結果だと考えられます。

人権教育とは

一般的には、「我が国固有の人権問題である同和問題の解決を図るために行われてきた同和教育の取り組みと成果を基に、同和問題を始めとするその他様々な人権問題の解決に向け、人権尊重の理念に基づいて展開されることを基本とした教育」と定義できそうです。

しかしながら具体的に、昨今の子ども達を前にしてどういった人権教育の取り組みが必要であり、また可能であるか。

自尊感情が育まれていない等の最近の子ども達を振り返ると、自分のことは周りに分かってほしいが、他人のことはあまり分かってほしいとしない子どもが意外に多くいます。他の人のことを分かってほしいというよりは、本当は自分自身のこともあまり

- つながり求めて -

分かっていません。自分自身の事を見つめようとしなくていいことになりません。従って自分の良さに気づかないし、ましてや他人の良さにもちろん気づきません。子ども達は本来やさしいですが、子ども同士の間関係づくりの中で、お互いに理解し合っているかとなると厳しい面があると思われます。大人も子どもも一緒です。

「人権教育」とは「人間関係づくり」であると言えます。子どもと子どもをつないでいく事、子どもと教師がつながっていく事であると考えます。それには月並みですが「学級づくり」が基盤となります。

学級づくりに向けて

- ・ 教師の「こんな学級にしたい」という思いと、子ども達の「こんな学級になってほしい」という願いの結びつき
- ・ 子ども達にとって、話を聴いてもらえる心地よい心の居場所となる学級づくり
- ・ 学級の垣根を低くし、いろんな人と触れ合うことが好きになる子どもの育成

教師の構えとして

- ・ 子ども達に思いを語らせるために、教師自身も自分を語る
- ・ 「やったことが実となる」ような参加体験型人権学習の取り組み
- ・ 教師自身が子どもへの好奇心、サービス精神を忘れないこと

終わりに

人権という言葉は、何かしらどこかに箇条書きにして書いてあるような、難しくて固いイメージでとらえがちですが、そうではありません。もう一度言いますが、人権とは人として幸せに生き合うためにどうしても必要なもの。その教育とは、子ども同士が知り合い、認め合うための人間関係づくり、教師と子ども・親との人間関係づくりを図ることです。隣に座っている友達のちょっとした変化に気づかずして、決して社会的問題、差別には気づきません。

点と点をつないで線とし、線と線をつないで面とし、面と面をつないで居心地のよい空間をつくりたいものです。

人権教育担当係長 清 昌司

人権教育をどのように教育活動に生かしていくか

尼崎市立浜小学校 教諭 市川 勉

小・養護学校教員人権教育研修会が、10月31日(金)に篠山市で開かれ、発表者として、参加させていただきました。

本校は「自分を律しながら、一人で歩む、みんなと歩む、たのしく歩む」をキャッチフレーズとし、人権教育に基盤をおいた生きる力を育む^お^か^け教育を教育目標に設定しています。

[^お^か^け教育とは ^おもいやりのある子(徳) ^かんがえる子(知) ^けんきな子(体)]

さらに、人権教育の徹底をはかるため、全教職員が、指導上の基本的事項として、人間の生命の尊さ、全ての人間の平等観を共通理解し、この原点に立って、基本的人権を尊重する人間を育てることを主眼においてきました。

そして、日々、人権問題を正しく認識し、意識を高め、さまざまな問題に取り組もうとする意欲や態度を育てるため、基礎・基本の徹底、日常生活の振り返り、身近な事例等の教材化による授業、家庭や地域の連携等を推し進めてきました。

しかし、児童の中には、まだ少し学習用具の準備ができなかったり、集中して物事に取り組めないといった面も見られます。また、学習への構えが受け身的で、自分の考えをみんなの前で発表できない児童も見られます。

行動面でも、表層的な理解に陥り、学習で獲得した知識もなかなか具体的な行動や生活に結びつきにくい傾向も少し見られます。さらに、基本的生活習慣が確立されていない児童も見られ、損得に固執し、自分で考え善悪の判断を下し、進んで行動できない面も見られます。

今年度は、教育の今日的課題、児童の実態等を踏まえ、特に、校時表の中に、『2本の帯タイム(朝の10分間読書・午後の計算タイム)』を位置づけ、

仲良く助け合い、励まし合う児童の育成
学習と生活の基礎・基本を身につけた児童の育成

自ら学び、考え続ける児童の育成

自他の生命、健康を尊重する児童の育成

を推進課題として、具体的な実践を進めています。

ここで、『人権課題の解決に資する取り組み』として、今年度実践を行っているものをいくつか紹介させていただきます。

- ・人権教育年間カリキュラムに沿って計画的に行う
- ・全校一斉「人権学習」授業に取り組む(例年10月実施...昨年度より
全クラス心のノート活用)
- ・「人権週間」での取り組みを行う
人権標語、人権授業の実施、各クラス目標の紹介(クラスのPRビデオ鑑賞会)、「友だち・クラス・自分のいいところみつめ」、点字体験学習、「ほほえみ」教本の貸し出し
- ・人権掲示板(中央玄関)の活用
全児童大型こいのぼり(5月)、浜一、尼一めざして・クラスのみあて(6月)、人権ポスター(6~10月)、やさしさみつめ(7月)、人権書道(毛筆・硬筆9月)、神崎保育所での保育体験、神崎保育所運動会、なかよし運動会の写真(10月)、人権標語(11月)、生活委員会による全児童教職員のお誕生日の紹介(通年)
- ・「やさしさだより」の発行
(各月1回、保護者への啓発を兼ねる。)
- ・「総合的な学習の時間」とのかかわり
...体験学習...保育体験5年(神崎保育所)
- ・縦割り行事...なかよし給食、わくわく浜っ子タイム
- ・「人権の花」の取り組み
...全校水やり当番、写生会、書道
- ・同和地区教育事業とのかかわり
...継続的な学習、自学自習、仲間づくり、全教職員による取り組み

以上、さまざまな取り組みを年間通して行っています。今後も、自尊感情を高める活動を大切に、違いを認識できる「自立の心」、違いを認識した上での「共生の心」を人権教育の柱として、本校の児童を育てていきたいと思っております。

人権教育関係資料のご紹介

人権週間（12/4～12/10）がはじまります。街頭啓発や市民の集いなどいろいろな催しが予定されています。今回は、教育総合センター・視聴覚ライブラリー及び（社）尼崎人権啓発協会に整備しています、比較的新しい『16ミリフィルム』、『ビデオテープ』の一部をご紹介します。

教育総合センター・視聴覚ライブラリー資料

1.6ミリフィルム

風かよう道・・・差別を生み出す古い因習とコンピュータを悪用した人権侵害を問う。（35分）

ビデオテープ

勇気あるホタルととべないホタル・・・ホタルと子ども達とのふれあいを通して、やさしさ、思いやりの大切さを描いたアニメ。（18分）

消えさらぬ傷あと「火の海・大阪」・・・昭和20年、無差別の空襲によって、多くの尊い命が失われた。平和の尊さを訴えるアニメ。（20分）

ケースで学ぶセクシャル・ハラスメントの対応・・・セクハラ訴訟が提起されたとき雇用管理上の配慮義務の実際を具体的な事例とともに解説する。（30分）

考えよう 命の大切さ 「少年法」が改正されたのはなぜ？・・・家庭や学校では「いい子」と見られながらも、非行の結果の重大性や社会的な責任について、きちんと認識できない少年が増えている。（15分）

（社）尼崎人権啓発協会資料

（6489-6815 中館7階）

1.6ミリフィルム

転校生・・・大人の誤った考えが、子どもに差別意識を植えつけ、そのため子ども達の間で「いじめ」がおこる。学校、家庭、地域社会の協力が大切である。（54分）

紫陽花のころ・・・いまだに結婚は家や親戚などの思惑や意見が、大きくまかり通っている。こうした差別意識の改革を個人の中から掘り起こそうとするものである。（30分）

ビデオテープ

勇気への出発・・・自分が差別に直面した時、隠れていた偏見や差別意識があらわになる人、問題解決に努力する人、人間の強さと弱さが浮き彫りにされる。ほんとうの勇気とは何か、を問いかけている。（52分）

稚内発学び座ソーランの歌が聞こえる・・・今、中学生問題で日本中が衝撃を受けている。私たちは今、何をすべきか？かつて、日本一荒れた学校の生徒が、全国民謡民舞大会で日本一になった。親も教師も、子供とのふれあいを通して一緒に学び合い、模索した稚内発の問いかけの映画である。（102分）

開館時間のご案内

平日：午前9時から午後9時
ただし、教育相談及び視聴覚ライブラリーは午後5時15分までとします。
なお、次の日は取り扱いいたしません。
【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行	尼崎市立教育総合センター 〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 06-6423-3400
発行者	伊藤 征人
題字	教育委員長 岡本元興

教育総合センター 3階の教育情報コーナーでは、人権教育関係の図書も収集しています。近年の人権教育学習の主流となっている参加型学習やワークショップの参考になる資料を、清人権教育担当係長より紹介していただきました。紹介の資料は人権週間の間、情報コーナー入口近くに展示しています。ぜひご活用ください。

必要な図書・資料等のお問い合わせがありましたら、お気軽にお尋ねください。
(教育情報コーナー担当・幾田)

人権教育関係図書（清人権担当係長推薦）

わたし 出会い 発見 大阪府同和教育研究協議会編
(人権教育の目標である子どもの自己実現を支援するために有益な新しい筋道を紹介した、人権の土壌を耕すための参加体験型教材・実践事例集です。)

わたし 出会い 発見Part2 大阪府同和教育研究協議会編
(子ども達が個性的に輝きながら、仲間の思いにふれ、自分の気持ちや社会の偏見、不正・不合理に気づき、互いにつながり合っていくことができる参加体験型人権学習プログラム・実践集です。)

わたし 出会い 発見Part3 大阪府同和教育研究協議会編
(人権学習を「総合的な学習」として取り組むことによって、より一層子どもの生活や生き方、地域社会に結びつき働きかけることをねらいとした人権総合学習プラン集です。)

じんけんスキルブック 兵庫県人権・同和教育研究協議会編
(一人ひとりが無理なく人権学習に取り組めるよう、幼少年期から高齢期までのそれぞれの発達段階に応じて人権に関する学習課題を設定し、生活場面でその課題をどうとらえ、どう解決すればいいかなどについて詳しく紹介した実践事例集です。)

ヒューマンライツ - 楽しい活動事例集 -

- グラハム・パイク、ディヴィッド・セルビー共著 中川 喜代子 監訳 平岡 昌樹 訳
(子どもが「人権」について理解し、探求することに役立つよう意図された幅広く、多様な、ゲーム・話し合い・体験活動・ロールプレイ・シミュレーション等で構成された活動事例集です。)

人間関係を豊かにする授業実践プラン50 教育技術MOOK小学館
(自分をかけがえのない存在として認めていくことのできる教材、人間関係を作っていくとき必要なことを身につけることのできる教材が詰まっています。一人ひとりの心を豊かにしていく内容を、参加体験型の方法を通して学習していける教材集です。)

みんなとの人間関係を豊かにする教材55 教育技術MOOK小学館
(豊かな人間関係を創り出していくために、「みんなのことが好きになる」そのきっかけを見つけることのできる教材集です。「人間関係を豊かにする授業実践プラン 50」の続編として、豊かな人間関係を身近な人々や周りの人々と創り出していくことをねらいとしています。)